

平成30年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 **最終**)

蒲刈中学校区 校番 24 学校名 蒲刈中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	○適切に設定されていると思う。 ○極少数人数なので、一人の占める割合に大きく左右され、目標値100%に無理があり、評価が下がった点が残念でしたが、ほぼ達成できたということで、目標、指標の設定は適切であったと思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	○きめ細かく方策がとられている。 ○平川教育長が「図書室に遊び心」と言われましたが、良いことをすぐ実践される姿勢はさすがです。 ○NIEの実践報告が大きく(新聞で)取り上げられたことは、全教職員で取り組まれた成果が出て適切だった証拠だと思います。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○もう少し、高く評価されても良いと思う。 ○自己評価に客観性を持たせることは大変難しいですが、評価基準を明確に示す努力をされたり、観察や聞き取り等によって、しっかり分析されていると思います。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○生徒に継続性を持たせるべく、良い改善策がとられている。 ○小学校、地域、広大研究チーム等で、あらゆる方面と連携されながら細かい分析を基に改善策を考えられていますね。実施に向けて宜しくお願いします。
その他		○校長先生をはじめ、教職員の皆様の熱心なる指導で、子供達は大きく成長しているようですが、業務改善をして体とメンタルヘルスに気を付けてください(教職員の)。 ○平川教育長から「英語の教科書を1年間に5回学習させ、CDを何度も聞かせ、声を出して読ませた」と聞いて、「薄い教科書3冊を丸暗記すれば公立高校合格」と言われたことを思い出しました。一生懸命取り組んでくださって感謝しています。お身体を大切に。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○子供に確実に力(資質・能力)を付けるための目標、方策を工夫していく。 ○生徒数や、教職員数が非常に少ないため、一人分の占める割合が大きくなることを踏まえた目標値の設定を検討する。 ○小中連携、地域連携、他校・多校種連携、広大等の教育関係機関との連携を幅広く行い教育実践を行っていく。
--------------------	--